

# 本日の上映作品&来場ゲスト

## プリンセス マヤ Starring Maja

その愛が真剣なら、ただひたすら突き進め!

マヤは18歳。高校卒業を控えて、『女優になりたい』という夢が膨らむ。しかし、マヤの住むスウェーデンの片田舎の町には希望も刺激もなく、夢を実現するのは難しい。本人はその気でも、極度の肥満で、不器用で社会性もないマヤは周囲の笑いをいくら語っても、田舎の素人劇団ですら主役はもらえない。昨今の日本のAKBやお笑い芸人ブームのように、美形でなくても成功する例も多々ある。それでも、だ。マヤを見ていると思わず笑っちゃう。お人好しでドジな田舎娘。これが女優に? なんてジョーダンと誰もが思うだろう。

こうして見ているうちに観客は監督の術中にはまって行く。バカにされても騙されても諦めないマヤ。女優の夢が

挫折しかけると、母親が救いの手を差し伸べる。母もかつては女優の卵だった。ラスト、スウェーデンのN01俳優、ロルフ・ラスゴードのカメオ出演が、マヤの明るい未来につながる… (渡辺芳子 ジャーナリスト)

**テレサ・ファビク 監督**  
Teresa Fabik

1976年、スウェーデン出身。96年から98年にかけて、ストックホルム大学とStockholms filmskolaで映画制作について学ぶ。

2001年、脚本・監督を手がけた短編「The Last Waltz」で数々の賞を受賞。2004年には、初長編映画「The Ketchup Effect」でイェテボリ映画祭のデビューアワードを受賞。本作は長編第2作目となる。




## 嗚呼 満蒙開拓団

### A Story of Manchurian Settler Communities

「嗚呼 満蒙開拓団」にたどり着くまで

振り返って考えると、私は今までさまざまな分野、さまざまなテーマの記録映画を手がけてきました。しかし、この作品で取り上げた問題に取り組んだのは、初めてです。何故この作品を作ることになったのか……。

私は1926年、今の中国東北地区、旧満州の南端の大連市の生まれ。学校の教師だった父の転勤で、一時、日本内地でも暮らしましたが、小学校、女学校を卒業したのは旅順。終戦を迎えたのは大連でした。私が日本に引揚げたのは、終戦の3年後、1948年。終戦後、大連にも奥地の開拓団から避難して来た人達がありました。しかし当時は日本とも満州奥地とも音信は途絶して、詳しいことは判

りませんでした。引揚船に乗るとき、みんな日本に帰れたのかと不安に思ったのですが、戦後の日本の生活が大変で、満州のことを考えないで過ぎてしまいました… (羽田澄子 記録映画作家)

**羽田澄子 監督**  
Sumiko Haneda

1926年、旧満州生まれ。自由学園を卒業後、岩波映画製作所に入社。「村の婦人学級」(57)以降、90本を超すドキュメンタリーを製作する。主な作品に「薄墨の桜」(77)、「早池峰の賦」(82)、「痴呆性老人の世界」(86)、「安心して老いるために」(90)、「歌舞伎役者 片岡仁左衛門」6部作(92~94)、「住民が選択した町の福祉」3部作(97~2005)、「平塚らいてうの生涯」(01)、「終りよければすべてよし」(06)。




## フロズン・リバー Frozen River

凍りついた河の中の“希望”

08年度サンダンス映画祭グランプリほか、数々の賞に輝く人間ドラマ。アメリカへの不法移民といえば、もっぱらメキシコからの密入国者が話題となり、度々映画の題材にもなってきたが、この「フロズン・リバー」での舞台はカナダとの国境近くのニューヨーク州最北部。灼熱の砂漠を渡りリオ・グランデ川を渡るメキシコからの移民とは違い、凍った河(フロズン・リバー)を越えてアメリカにやってくる人々の目に映るアメリカの冷たさと美しさが印象的だ。アメリカ政府はアメリカ

先住民をインディアンと呼び、土地を奪い、文化を破壊し、保護の名の下に荒れ果てた不毛の土地をあてがってきた。この作品の舞台となる土地もそんな場所で、アメリカ先住民モホーク族の居留区になっている。消えることのない差別と逃れることのない絶対的な貧困の中で生きるモホーク。だが、逃れることのない貧困は先住民族だけに与えられた苦難ではない… (鬼塚大輔 静岡英和学院大学教授/映画批評家)



## 祝の島 Holy Island

世界が自分の内とつながるとき

私が初めて祝島を訪れたのは、今から7年前のことである。長い間、上関原発建設に反対し続けてきた島だと聞いていたので、勝手にも閉鎖的な悲壮感漂う戦いの場を思い描き、緊張して島へ向かったのだ。しかし、島に降り立った私を出迎えてくれたのは、明るく澆刺してくれる島人たちだった。私はその姿にいきなり引き込まれ、なぜか故郷に帰ってきたような感覚をおぼえた。祝島の人たちの反対運動や、上関原発建設計画のことは、全国ネットで放映されることはまずない。地元のニュース番組で取り上げら

れることはあっても、激しい抗議行動の一瞬が映し出されるばかりである。でも私は、自分が心引き寄せられた人たちが、今まで何を大切にしてきたのか、何を守ろうとしているのかを知りたかった。その心に触れたいと思った… (瀬瀬あや 映画監督)

**瀬瀬あや 監督**  
Aya Hanabusa

1974年、東京生まれ。自由学園卒業。写真家・映画監督である本橋成一氏の下で、映画製作、宣伝、配給に携わる。映画「ナミイと唄えば」(06)プロデューサーを経てフリーに。本橋監督作「アレクセイと泉」上映会で祝島を訪れ、島民たちの原子力発電所建設反対運動に触れ、本作の着想を得る。08年夏よりカメラマン、大久保千津奈氏と2人で現地へ通い、空き家を借り、寝泊りし、島民の営みを撮り続けて本作を完成させる。




## 月あかりの下で~ある定時制高校の記憶~

### Under The Moonlight

「月あかりの下で」をご覧になったみなさんへ

「盗撮ババア!」と生徒から悪態をつかれながら、4年間、およそ週に一度のペースで夜の学校に通い続け、撮影した映像がこの映画のもとになっています。あのクラスの若者たちと一緒に給食を

食べ、階段の踊り場でしゃべったりするうちに少しずつ距離を縮め、本音を聞きだせるようになる頃には、彼らが本当にいとおしい存在になっていました。そして彼らの抱える現実

が厳しいものであることを知るにつれ、定時制高校の役割が光を放つてきてきました。家庭や社会の歪におしつぶされ、自暴自棄に陥る十代の若者たちに寄り添い、手を差し伸べ、とりえずマイナスからゼロの地点までひっぱりあげる……そんな学校でした。ここにたどりつくまでに散々傷ついてきた若者たちの心を理解し受けとめ、新しい一歩を踏み出す勇気を与えてくれる場所でした。

単なる居場所ではなく、若者たちを育てるために仲間が存在を意識させ、社会に目をひらかせる、まぎれもない学校でした… (太田直子 映画監督)

**太田直子 監督**  
Naoko Ota

1964年、東京都出身。高校非常勤講師、書籍編集などの仕事をを経て映像の仕事に入る。2002年4月から2008年3月まで浦和商業高校定時制に通い、授業風景などを撮り続ける。この映像をもとに2007年夏、日本テレビ「テラジヤ〜1461日の記憶〜」(全4回)を演出し、大きな反響を呼ぶ。番組放送後も取材を続け、廃校に至るまでを見守った後、本作を長編映画として完成させる。




## 韓国短編②

### Garivegas

2005年/19分/監督・脚本:キム・ソンミン  
2005/19min/ Director, Writer: Kim Sun-min



**STAFF**  
製作:オ・ジョンテ  
撮影:チェ・ビョンファン  
音楽:キム・ドンウク  
Producer: Oh Jeong-teek  
Cinematographer: Choi Byung-hoon  
Music: Kim Dong-wook

**CAST**  
ソナ/イ・ユンミ  
ヒヤンミ/チョン・ソンヨン  
Sun-hwa: Lee Yoon-mi  
Hyang-mi: Jeong Seon-yeon

**Director**  
キム・ソンミン  
Kim Sun-min



朝鮮族や東南アジアからの労働者が多く住む地区、加里峰。国内有数の工業地域だったが、今はデジタル産業団地に変わりつつある。工場の移転に伴い引越すソナは、街に留まることを選んだ友人に見送られて旅立つ。一人の女性の引越しを通じ、急速に合理化の進む韓国社会を描く。

### Feel Good Story

2004年/36分/監督・脚本:イ・ギョングミ  
2004/36min/ Director, Writer: Lee Kyoung-mi



**STAFF**  
製作:キム・ダヨン  
撮影:チョン・サンジョン  
音楽:シム・ヒョンジョン  
Producer: Kim Da-young  
Cinematographer: Cho Sang-yoon  
Music: Shim Hyun-jeong

**CAST**  
ジヨン/チェ・ヒジン  
ヒジン/ソ・ヨンジュ  
Ji-Young: Choi Hee-jin  
Hee-jin: Seo Young-ju

**Director**  
イ・ギョングミ  
Lee Kyoung-mi



小さな会社のOL ジヨンとヒジンは、上司から帳簿の数字を改ざんする残業を命じられる。仕事内容を訝しむジヨンと気がしないヒジン。温度差の違いから、次第に2人の仲は緊張感に満ちてゆく。「ミスにんじん」のイ・ギョングミ監督が、女性同士の反発と共感を鮮やかに描き出す。

### To Be

1996年/4分/監督・脚本:パク・チャノク  
1996/4min/ Director, Writer: Park Chan-ok



**STAFF**  
撮影:キム・ヨンギョン  
照明:チョン・ユンチル  
録音:キム・ジンサン  
Cinematographer: Kim Yong-kyun  
Lighting: Jung Yun-chul  
Recording: Kim Jin-sang

**CAST**  
女性1/ファン・ヒジョン  
女性2/キム・イギョク  
男性1/キム・マンソク  
男性2/イム・チヨルスン  
Woman 1: Han Hee-jung  
Woman 2: Kim Ik-kyung  
Man 1: Kim Man-sik  
Man 2: Lim Chul-seung

**Director**  
パク・チャノク  
Park Chan-ok



夏の夜の満員電車。自分の胸元を見つめたり、痴漢行為に及ぼうとする周囲の男性客に嫌悪する主人公。しかし電車が揺れた拍子に、前に立つ女性のお尻に手が触れてしまう。女性の中の潜在的な欲望を、台詞を排し緊張感ある映像で描く。ソウル女性映画祭優秀作品賞&観客賞受賞。

※他1作品(「Oh! Beuriful Life」2003年/16分/監督・脚本:キム・インスク)上映